【俳句（はいく）に挑戦（ちょうせん）】

はじめて五・七・五 俳句

名句に親しむ

昔によまれた句から最近の句まで、「名句」と呼ばれる俳句を紹介するよ。

文 塩見恵介

俳人。甲南中・高（兵庫県芦屋市）国語科教諭。同志社女子大俳句講義担当。句集に『虹の橋』『泉こぼ』など。

イラスト・milkpillow

翅わっててんたう虫の飛びいづる

高野素十

《てんたう虫＝夏の季語》

塩見先生

テントウムシが飛ぶ瞬間を見たことがある人は、映像が頭にうかぶだろう。表面の赤い羽をパッと広げ、内側のうすい羽をはばたかせて飛び出そうとするテントウムシ。その姿を写真のように言葉でえがいた句だね。

俳句は、自分の感情や感動を直接言葉にするより、見たものを映像的に五七五の言葉で表現すると、読んだ人が「すてきな映像だね」と共感する作品ができるよ。「写生」という作り方だ。かんたんそうで案外難しいけれど、チャレンジしてみてね。

作者はその「写生」俳句の名人で、昭和の時代に活躍したよ。この句は1947年に出版された高野素十句集『初鶏』に収められている。

見たものを映像的に表現

だいご

同じ作者で「天道虫だましの中の天道虫」というおもしろい句もあるよ。テントウムシダマシという虫がいるんだね

なのか

観察の目のするどい作者は、医学の専門家でもあったそうだよ

◆俳句を送ってね

104-8433

朝日小学生新聞

「はじめて俳句」係

住所いらないよ

名前

〒住所

学校名／学年

電話番号

俳句をね

送ってほしいな夏の空

【おねがい】俳句は必ず自分で作った句を送ってください。ほかの人の句をまねすると、作った人の「著作権」という権利をおかすことになります。

<5/11　朝日小学生新聞　より　>

たった 17 文字（もじ）、五、七、五のリズムで、さまざまな情景（じょうけい）や心情（しんじょう）を詠（よ）むことができる俳句（はいく）は、日本（にほん）の文化（ぶんか）の中（なか）でも、すぐれたものの一つだと思（おも）います。

俳句には、季語（きご）と言（い）って、季節（きせつ）を表（あらわ）す語（ご）を入（い）れます。

季語のないものは、川柳（せんりゅう）と呼ばれ、さらに気軽（きがる）に楽（たの）しむことができます。

まずは、指（ゆび）を折（お）りながら、五文字、七文字、五文字の言葉（ことば）遊（あそ）びから始（はじ）めてみましょう。

また、できた句（く）を募集（ぼしゅう）しますので、進（すす）んでチャレンジしてみてください。